

分科会の記録 第2分科会 子供の発達に関する課題

【提言2 研究主題】

「自発的・主体的に学校生活を送ることができる児童生徒の育成」
～支援体制を充実するための副校長・教頭の役割～

【提言者】 武雄市教頭会 武雄市立山内西小学校 副島 泰子

【協議の柱】

「自発的・主体的に学校生活を送ることができる児童生徒の育成」に向けた武雄市の取組は有効であったか。また、どのような課題があるのか。

他地域では、支援体制を充実するための副校長・教頭の役割として、どのような実践を行っているのか。

【協議内容】

- ・「笑顔コーディネーター」は市の職員で、子供の貧困対策部署に所属している。気になる子供たちへの早期支援のために学校と連携し、不登校児童への対応や家庭訪問などを行っている。
- ・ICT活用と自走する教職員集団の育成のために、情報教育化推進リーダーや教頭を中心に年間を通じたICT活用のコーディネートを行っている。ICT活用の効果的な授業風景を校内モニターで共有したり、15分程度のミニ研修を実施したりすることで、互いに実践共有や学び合いをする姿が見られるようになった。
- ・若手教員育成と学級経営強化のため、学級経営・教科経営に関する状況や困り感に応じた参考になる資料を2週間または月に一度のペースで定期的に配布している。
- ・不登校児童へのオンライン授業は、文化祭・体育祭等の大きな行事のリモート参加や病弱児の体調に応じた弾力的な運用など、限定的に行っている。
- ・若手教員育成のために副校長・教頭はコーディネーター的役割であるべきである。中学校は教頭と学年主任が分担して役割を担っている。小学校は教頭がその部分を担当することが多く、他職員と連携するものの、負担が比較的大きいと思われる、そこが課題である。

【指導助言】 西部教育事務所北部支所 指導主任 福島 慈 氏

- ・全国学力・学習状況調査の結果から、友達関係や教師のサポートが子供のウェルビーイングに強く関連していることが示された。子供たちが自ら好きな科目に打ち込める学習環境や学習指導の重要性が指摘された。
- ・子供のウェルビーイング向上が地域全体のウェルビーイング向上につながる可能性があり、助け合いや地域参加、ボランティア活動への参加が重要であることが示された。
- ・佐賀県の重点的取組である「ほめるから、はじめる。はじまる。」という合言葉を念頭に、子供たちの言動や頑張りに気付き、褒めて高めていくことが重要である。
- ・子供たちを直接支える存在である教員のウェルビーイング向上も、教育にとっては重要である。
(提言1の指導助言と同じ)